

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692800044		
法人名	特定非営利活動法人 水度坂友愛ホーム		
事業所名	グループホームゆうあい寺田		
所在地	城陽市寺田乾出北45番地		
自己評価作成日	令和元年12月4日	評価結果市町村受理日	令和2年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JigyouCd=2692800044-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは開設して9年が過ぎ、利用定員は9名となっています。ホームでは四季を感じて暮らせる環境、慣れ親しんだ風景、スタッフとの共同生活で安心して暮らせる環境を提供しています。朝は、元気なラジオ体操から始まり、レクリエーション、美味しいお食事をスタッフと囲み、日々、利用者様と共に笑いの絶えない生活を送っています。又、100才をお迎えされた利用者様2名がおられ、日々利用者様すべてに心身の状態が変わっていても、その方らしい、いつもの暮らしを少しでも長く続けて頂く為に、理念にもあるように家族との絆を大切に、ご利用者様、ご家族、職員が共に考え、工夫していく事が大切だと思っています。その中でも、ご家族、ご本人のご意向を確認し、最期の看取りについても支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は地域交流を大切にしており、運営推進会議等で地域の情報を得てどんどこ焼き等の行事に利用者とお出掛けしています。併設事業所全体での花見や夏祭りには多くの地域の方の参加を得て一緒に楽しんでもらうと共に、年2回近隣の幼稚園児の来訪がありプレゼントを渡し交流したり、楽器の演奏や歌、絵画、調理等多数のボランティアを受け入れる等、地域との良好な関係を築いています。日々散歩や買い物に出掛ける他、初詣や花見、イルミネーション、コンサート等、出来る限り外出する機会を多く持てるよう努めています。また、職員間で都度話し合いを重ね個々の利用者に応じた支援方法を検討しており、特に排泄面では統一した支援をすることで排泄用品の使用を減らしながら自立支援に向けて取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼にて理念・月間目標を唱和し、実践につなげている。 全体のセンター会議や、グループホームミーティングでも理念を共有している。	法人全体の理念をフロア等に掲示し朝礼時に一項目ずつ唱和して意識付けを行い、職員の入職時に理念について説明しています。理念を踏まえて月間の目標を立て日々の支援に取り組み、全体会議等で目標の達成状況を振り返り理念の実践に繋げています。また、年度末にも理念や目標の達成状況を確認しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方、民生委員、幼稚園、中学校等と交流し、当ホーム行事についてお招きしている。 音楽サークルや多種多様なボランティア様も来訪。地域のコーラス部にも施設を開放している。	自治会に加入し運営推進会議等で地域の行事等の情報を得て中学校での運動会やどんど焼き等に利用者と参加しています。事業所全体の花見や夏祭りには地域の方の多くの参加を得て一緒に交流し楽しんでもらっています。また、年2回幼稚園児の訪問がありプレゼントを渡し交流したり、また、多数のボランティアの訪問がありネイルや歌、楽器の演奏を楽しむ等、地域との関わりを深めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェの開催や認知症予防教室、花植え事業を通して地域に貢献している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、入居者の現状を報告している。又、防災訓練、夏祭り行事など、参加、協力して頂いている。 自然な会話の中で、参加者より、意見を引き出せるような談話の時間を作っている。	会議は2カ月に1回家族代表や市職員、自治会役員、民生児童委員、地域包括支援センター職員等の参加の下開催し、利用者の状況や活動報告、行事予定等の連絡、事故報告や対応策等を話し合い意見交換をしています。地域の行事の情報をもらい利用者や出掛ける等、会議を運営やサービスの向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービス事業所連絡会に参加し、グループホームのサービスだけでなく様々なサービスの内容の説明やアドバイスをいただきながら協力関係を築けるよう努めている。	運営推進会議の議事録の提出や運営上の手続き、不明点等の確認等で行政の窓口を訪問しています。地域密着型サービスの事業所連絡会に参加し行政職員と意見交換を行ったり、行政から案内の届く研修には必要に応じて参加し協力関係を築くよう努めています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を開催及び施設内研修を年2回実施している。 また、市主催の虐待防止会議に出席しており、市の状況等の情報を知らせてもらっており、常時ミーティングを通して、しない・させないケアを実践している。	年2回施設全体の身体拘束に関する研修で職員は知識を身に付け、また毎月のグループホーム会議の中で事例の検討を行っています。家族の了解の下、安全上センサーを使用する利用者があり、必要性については定期的に検討しています。玄関は基本的に鍵をかけず、外出希望の利用者には玄関先に出て花を見たり職員が付き添い散歩に出掛けて気分転換を行っています。		

グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を年2回実施。 入居時などにご家族に説明している。必要に応じて、制度の活用にも努めている。 風通しの良い、お互いのコミュニケーションを図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	センター会議、グループホームミーティングで職員同士で話し合っている。 年1回4月に、研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書をもとに説明し、理解、納得を得ている。日々、疑問時はすぐに対応し、理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	平素から利用者様に傾聴を行い、思いや意見を受けとめるように努めており、運営推進会議で利用者様からの意見を伝え外部からの意見もいただいている。 又、年1回のアンケートにおいて、情報をスタッフ、ご家族、ご本人で共有し、信頼関係を大切にしている。	利用者からの要望は日々の関わりの中で聞き、希望にそった外出や好みの食事の提供等出来ることは都度対応しています。家族の意見や要望は面会時や電話、年4回の家族会、年1回のアンケート等で聞いています。家族から歩行についての要望を受け、ウォーキングやトレーニングに取り組む等、得られた意見や要望をサービスに反映するように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター会議や、ミーティング、毎日の申し送りにて意見をだせる、職員の想いを知り、話しやすい雰囲気を作っている。 管理者は耳を傾け、上長に報告している。	毎月のセンター会議やカンファレンス、日々の申し送りの中等で職員の意見や提案を聞き、不参加の職員には事前に書面で意見を聞いています。職員間で話し合い備品の使用方法やケアの統一をする等意見を運営に反映しています。研修や広報等の業務担当としての意見を聞いたり、定期的面談や随時職員に声を掛けて意見や思いを聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい、職場環境の為に、個々のライフスタイルに合った労働時間や仕事の内容を配慮している。(ワークライフバランス) 自己評価面接を年2回実施し仕事へのやりがいにもつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任者の施設内研修、外部研修、中堅職員研修、グループホーム大会参加など積極的に取り入れている。		

グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所連絡会議にて、同業者との交流、又、外部研修にて他事業所と交流を深め、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約時、常に、ご本人がどうしたいかを言葉や表情から読み取れるように、関わりを持ち、サービス担当者会議にて、ご意向を確認し安心して過ごせる環境作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が気兼ねなく、本音が言える環境作りを目指し、ご本人様の様子を共有したり、様々な疑問に耳を傾け誠意のある対応をして、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今の必要なケアをプランに導入し、サービスの提供を行っているが、過去の情報をご家族と共有し、ケアプランに反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する、されるという関係性ではなく、同じ空間、同じ場所で、今一緒に生活しているという意識を持ち、楽しさや喜びを分かち合える誠意ある対応に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会を通して、「施設で全てお任せする。」といった事が無いように、ご家族様と連絡を密に行い、ゆっくりと互いに過ごせる環境作りを目指し、配慮することに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも、どなたでも来て頂けるように声をかけている。来所持には、ゆっくりと出来る環境に心掛けている。	近所の知人や職場の同僚、親戚等の来訪時にはリビングや居室へ案内し椅子やお茶を用意してゆっくり過ごしてもらえよう配慮しています。職員と通い慣れた寺院等へ出掛けたり、家族と自宅に帰ったり、美容室や神社、墓参り等へ外出する際には身支度や薬等の事前の準備を支援しています。また、電話を取り次ぐ等、出来る限り馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の人間関係や身体状況を把握し、職員がご利用者間の間に入ること、関わりが継続出来ている。 毎食事一緒に食卓を囲んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にも連絡を下さるご家族様や、ボランティアとして勤めて下さる方もおられ、関係を維持できている。又、相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当者を中心に、希望に合わせた支援をしている。本人目標を忘れず、実践し、支援(ケアプラン)計画に反映している。	入居時に自宅や事業所等で面談し利用者や家族から生活歴や身体状況、趣味、思いや意向等を聞きアセスメントシートに記載し職員間で共有しています。入居後は利用者との日々の会話で思いや希望を聞き記録に残し、把握が困難な場合は様子や表情から汲み取ったり、家族にも相談しカンファレンスで本人本位に検討し思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様から、情報を収集し、日常の支援につなげている。得られた情報はアセスメントシートに残し、他スタッフとも情報を共有し、統一したケアにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「一般状態記録」「個人記録」「ケース記録」に記入し、現状の把握を行うと共にケアプランに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングや日々の申し送りで、現状困難事例を話し合い、意見を出すことで、チームとして統一したケアにつなげている。サービス担当者会議で話し合いし、状態に合わせたケアプラン、カンファレンスを実施している。	アセスメントや本人、家族の意向を基に作成した介護計画は初回は2週間で見直し、以降は6か月毎の見直しを基本とし、利用者の状態に変化があれば随時見直しています。3か月毎にモニタリングと再アセスメントを行い、見直し前には家族の参加を得てサービス担当者会議を開催し利用者や看護師、往診時に聞いた医師の意見も必要に応じて反映しています。また、日々の計画の実施状況は書面に記録しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「一般状態記録」「個人記録」「ケース記録」に記入し、日々、スタッフ間で情報を共有し、実践に、ケアプランの見直しに活かしている。		

グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他部署と連携し、今この瞬間に生まれる様々なニーズに対応できるように、普段から様々な視点で観察し、支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域をドライブしたり、外食レクリエーションなどで地域との関わり、楽しむことが出来ており、ボランティアの方々に来て頂き、楽しい時間を送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一回、かかりつけ医の訪問診療で、入居者全員が受診。異常がある場合は直ぐに電話などで、Dr.へ連絡している。	入居時に今までのかかりつけ医を継続するか事業所の協力医に変更するかを選択してもらい、全員が協力医を選択して往診を受け、緊急時は24時間対応で協力医へ連絡し状況に応じて随時の往診も可能となっています。専門医への受診は家族の対応を基本とし、利用者の希望や必要に応じて訪問歯科の口腔ケアや治療の他、訪問マッサージを受けている利用者もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師と連絡を毎日取り合いながら、安心、安全な暮らしを提供している。 夜間はオンコールにて対応している。 又、体調悪化時、Dr.へスピーディーに連絡が来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は、介護職員、看護師が病院に出向くなど情報交換に努めている。退院時は、退院後の注意点など直接情報がもらえるように、積極的に働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より、カンファレンスの際に、ターミナルの意向確認を行っている。運営推進会議では、今後考えられる心身の状態を話す機会を持つことが出来ている。住み慣れたグループホームでのターミナルの希望を受け、かかりつけ医を含めて話し合いが出来ている。	入居時に指針を基に重度化した際の事業所の対応について家族に説明し同意を得ています。重度化した際には医師や職員から家族へ説明し、家族や医師、看護師、職員で話し合い看取りの方針を決め支援しており、家族から宿泊での付き添い等の協力を得ることもあります。また、年1回法人の看取りに関する研修を受け、不参加の職員には内容を伝達し理解を深めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で急変時の対応について訓練している。(外部研修含む) 又、疑問がある時は常勤の看護師と話し合いし、チームでのレベルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の昼、夜間想定総合避難訓練、年4回の消火器訓練を行っている。地域の消防団・市担当課・民生・自治会様にご協力をお願いしている。緊急連絡体制の確立も出来ている。	年2回併設の事業所と合同でそれぞれ昼夜を想定し、いずれも消防署立ち会いの下、利用者も参加し通報や避難誘導、初期消火等の訓練を実施し、さらに年4回自主訓練を行い消火器の使い方の確認やコンセント廻り、連絡網の確認等を行っています。訓練実施時には近隣へ案内を行い、運営推進会議のメンバーの参加も得ています。飲料水や非常食、毛布、ランタン、カセットコンロ等を準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内にて法令遵守の研修を行い、又、日々気付いた点は、職員同士で話し合いをし、ご利用者様お一人おひとりの人格を尊重しながら、個々に合わせた対応を行っている。	年1回以上法人の法令順守に関する研修の中で職員は多くの事を学び、不参加の職員はDVDや書面で内容を確認しレポートを提出しています。利用者に対しては丁寧語を基本に呼称は苗字で呼びかけていますが、不適切な対応があればその都度個別に注意をしています。希望に応じて入浴や排泄時の同性介助を行い、羞恥心にも配慮した支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の様々な場面で、ご本人の気持ち、考えがあつての行動になるように選択肢を提供している。表情や感情に注意し、その方の想いに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのペースを優先し、状況を判断しながら無理強いにならない様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧道具、慣れ親しんだ服を持ち込んで頂き、介助しながら、ご本人の身だしなみを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりの嗜好を確認し、個別に対応する様に努めている。形態にも注意し嚥下能力を落とさない様チームで工夫し、美味しく食べる事が出来るよう努めている。食器拭きや片付けも一緒にしている。	献立は朝食と日曜日は事業所で決めその他は管理栄養士が立て事業所で作り、利用者にはお盆やテーブル拭き等出来ることに携わってもらい、職員も一緒に食事を摂っています。庭で獲れたねぎや青じそ、柿が食卓に上がったり、ホットケーキ等のおやつの手作りや出前でピザや弁当を取ったり外食に出掛ける等、食事が楽しみなものとなるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回 カロリーを計算して、栄養バランスに配慮している。水分量チェックを行い、脱水予防に努めている。水分、食事量が減少すれば、間食やジュースを提供し、柔軟に対応している。		

グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前の口腔体操、毎食後の口腔ケアをしている。訪問歯科医と連携し、口腔衛生をチェックして頂き、悪化を防止する様努めている。又、口腔ケアについてアドバイスももらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はタイミングの良いトイレ誘導を心掛けながら排尿チェック表にて時間を確認し、誘導するタイミングを考えて対応している。オムツは使用せず、リハパン・布パンツ・パットでできる限り対応している。	トイレでの排泄を基本とし利用者の排泄記録を取り排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせて声かけやトイレへの案内をしています。退院時におむつを使用していた方が日中布の下着になる等排泄の状態が改善した方もいます。個々に応じた排泄用品の種類や支援方法については、グループホーム会議や都度検討しケアの統一を図るなど排泄の自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝手作りのヨーグルトを提供し、水分摂取をとる時間を一日多くとり、便秘解消に努め、便秘予防体操も毎日実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応曜日は、利用者様の身体状況もあり、決めているが、ご本人の様子で曜日が変わっても、週3回は入浴出来ている。	入浴は利用者ごとに曜日を定め少なくとも週3回となるように日中に入ってもらい、希望があれば毎日や夜の入浴も可能です。入浴拒否が見られる場合は声をかける職員を代えたり日時を変える等の工夫をすることで無理のないように入浴してもらっています。好みのシャンプー等を持ち込む利用者もあり、入浴剤やドクダミを使用したりゆず湯を行い、1人ずつ会話も楽しみながらゆっくり入浴を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせ、居室で休息、就寝出来ている。睡眠導入剤は全ての利用者様に内服していない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に医師の指示を仰ぎながら支援している。看護師の指示のもと、介護職員も薬の説明を受け内服介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物、たたみなど個々の能力に合わせて、その方のやりがい継続出来る様に役割を持って頂いている。又、歌やカラオケ、談話を楽しんだり、テレビ観賞などリビングで他利用者様や職員と一緒に笑って過ごす時間を持つことが、日々の楽しみになっている。		

グループホームゆうあい寺田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクリエーションを定期的実施している。散歩支援はできる限り意向にそえるように対応するが、時間によっては出来ず遅れる事もある。ご家族様や知人との外出も支援している。	日々散歩やおやつを買いに出掛けたり、地域の行事に参加し外出の機会を作っています。季節に応じて初詣や梅林、桜の花見、紅葉狩りに出掛けたり、ドライブでコスモスやイルミネーションを観に行っています。家族の参加を得て神社へ出掛けたり、コンサートを聞きに行くこともある等、外出する機会を多く持てるように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了承のもと、ご自分で、お金を所持されている方がおられる。職員が同伴して、買い物に出かける事もある。預り金からご本人のご希望の物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人自ら電話する事は難しい面もあるが、ご家族様からの電話は取り次ぎ、ゆっくりとお話出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に清潔にしておくよう細めに掃除をしている。季節感を取り入れた飾り付けも行い、外気を感じる事が少なくても、季節感を感じてもらえるよう努力している。	食堂に生花を飾ったり、フロアに習字や行事の写真を掲示したり、利用者と職員で毎月飾り付けを行い温かい雰囲気を演出しています。テーブルや椅子は利用者同士の相性を考慮して配置し、温湿度計を設置して利用者の体感にも留意しながら温湿度を調整しています。加湿器を使用して毎日換気や利用者も出来ることに携わりながら掃除を行い快適に過ごせる共有空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファが人気で時に座れず、ご利用者同士で譲り合うこともある。仲のいいご利用者様と座ることで、安心されたり、自由にその時の状況にあった居場所を選んで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた調度品や思い出の写真などを置く等の工夫で、出来る限り自宅での生活に近づくことが出来る様に配慮している。	入居時に馴染みの物を持ち込んでもらうように伝え、小物入れや棚、タンス、椅子、家族の写真、等を持ち込み、入居に向けて自宅を訪問した際には居室作りの参考にし家族と相談しながら配置しています。趣味の将棋や裁縫道具を持ち込み楽しんでいる方もいます。毎日換気や利用者も出来ることに携わりなが清掃を行い、快適に過ごせる居室となるよう配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリーで、手すり、エレベーターもある。エレベーターの使用は最低限にし、残存機能を活かすため階段を使用している。転倒の危険性は増え、見守りの時間、スタッフの人員も増えるが、出来る力があるうちは、それも自立支援向上と考えてチームとして支援している。		